

# 病院における女性図書館員の就業意識

北澤 洋子 (国立大阪病院)

首藤 佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)

大音師 淳子 (阪和病院)

## はじめに

この調査は、近畿病院図書室協議会が研修企画立案の為に基礎資料として実施したものである。主な目的は研修の継続性を確かめることであった。通常、病院図書室は1～2人の担当者で運営されており、担当者の経験や資質がその図書室のレベルを左右する。ところが病院では職場条件が整備されていない所が多く、仕事を続けるには、必ずしも良い環境とは言えない。本人の意志とは無関係に配置転換が行われることもある。一方情報活動の多様化により、担当者に要求される知識や技術も高度になってきている。そこで協議会内の担当者の実態及び意識を調査することにした。

## 調査の方法

調査はアンケート方式で下記の要領で行った。

- ①実施年月 1983年9月
- ②調査対象 近畿病院図書室協議会加盟病院  
図書室担当者60名

### ③調査項目 (図1～3)

- 1. フェイスシート 2. 就業動機 3. 職業選択の動機 4. 仕事に対する考え方
- 5. 仕事に対する満足度 6. 就業継続の意志 7. 継続の為に条件 8.9. 仕事にやりがい、不満を感じる時 10. 仕事上で関心

のある事柄 11. 仕事上での将来の目標

## 12.13. 感想

## 結果

回収率は32名で53%であった。

### 1) フェイスシート

年令では20代・30代で79%を占めており(図4)、5年以上勤務の経験豊かな担当者が72%を占め(図5)、司書の有資格者は70

### アンケート調査

- 1 あなた自身についてお尋ねします。
  - 1 性別 1 男性 2 女性
  - 2 年令 1 20才代 2 30才代 3 40才代  
4 50才代 5 60才代
  - 3 専門教育 1 大学・短大における図書館学講座  
2 司書講習会  
3 通信教育  
4 受講経験なし  
5 その他 ( )
  - 4 勤続年数 ( )年
  - 5 雇用形態 1 正職員 2 アルバイト 3 パートタイム  
4 その他 ( )
  - 6 勤務形態 1 専任 2 兼任 3 その他 ( )
  - 7 勤務上の地位 1 役職なし 2 役職あり
  - 8 研修会・学会への参加  
1 自由にできる  
2 回数に制限がある  
3 休暇をとらないと参加できない  
4 その他 ( )
- 2 あなたが勤めに出た動機はなんですか。
  - 1 家計を助けるため
  - 2 経済的に自立するため
  - 3 結婚その他の資金をつくるため
  - 4 社会に出て見聞を広めるため
  - 5 社会の役に立つため
  - 6 学校で学んだことを生かすため
  - 7 その他

図1 調査用紙

- 3 あなたが病院図書館に勤務されるようになったのはどのような理由からですか
- 1 病院図書館をはじめから希望していたから
  - 2 司書の仕事をしたかったが病院図書館にしか就職口がなかったから
  - 3 病院につとめており、その後図書館を希望したから
  - 4 自分の希望には無関係に命令により図書館に配属されたから
  - 5 その他 ( )
- 4 あなたは図書館の仕事について現在どのようにお考えですか
- 1 自分の性格に向いていて能力を活かせる ( Yes No )
  - 2 仕事がらく ( Yes No )
  - 3 仕事に変化がありおもしろい ( Yes No )
  - 4 院内での位置づけや管理・運営方針が明確に示されている ( Yes No )
  - 5 女性の職種としては待遇がよい ( Yes No )
  - 6 専門的な仕事で将来に希望がもてる ( Yes No )
  - 7 質の高いサービスが提供できている ( Yes No )
  - 8 機械化が進めば自分の仕事はなくなるだろう ( Yes No )
  - 9 精神的・肉体的疲労が大きい ( Yes No )
  - 10 職員によく利用されていると思う ( Yes No )
  - 11 その他 ( )
- 5 あなたは今の仕事に満足していますか
- 1 たいへん満足 2 やや満足 3 やや不満 3 たいへん不満
- 6 あなたは今後も今の仕事を続けたいと思いますか
- 1 続けたい
  - 2 いくつかの条件が改善されれば出来るだけ続けたい
  - 3 結婚まで続けたい
  - 4 出産まで続けたい
  - 5 結婚・出産等で継続しても時期がくれば退職したい
  - 6 チャンスがあれば転職したい
  - 7 続けるつもりはない
  - 8 その他 ( )
- 7 あなたが今後図書館で仕事を続けてゆく為には次の内どの条件が重要だと思われますか。2つ選んで下さい。
- 1 図書館・情報学分野のより専門的な技術や知識
  - 2 医学分野の知識・用語の修得
  - 3 外国語の能力
  - 4 事務能力
  - 5 サービス精神
  - 6 職場条件 (勤務条件・評価・人間関係・責任と権限 など)
  - 7 家庭・個人的条件 (健康状態・通勤時間・家事との両立 など)
  - 8 その他 ( )
- 8 あなたが仕事上、最もやりがいや喜びを感じるのはどの様な時ですか。 ( )
- 9 あなたが仕事上、最も不満を感じたり辛い思いをするのはどのような時ですか。 ( )
- 10 あなたが仕事上、最も関心のある事項は何ですか。 ( )
- 11 現在あなたは仕事上将来の展望や目標を持っておられますか。あればお書き下さい。 ( )
- 12 男性の方へ記入をお願いします。あなたは同じ司書仲間として、同僚として女性担当者をどのような風に御覧になりますか。感想をお書き下さい。 ( )
- 13 女性の方へ記入をお願いします。病院図書館担当者の性比は女性が圧倒的に高いのですが、仕事上でそれに対する感想があればお書き下さい。又、女性の職場として病院図書館をどうお考えになりますか。 ( )

御協力ありがとうございました。

図2 (続き)

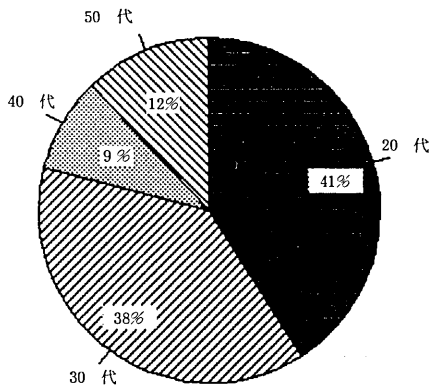


図4 年齢

図3 (続き)

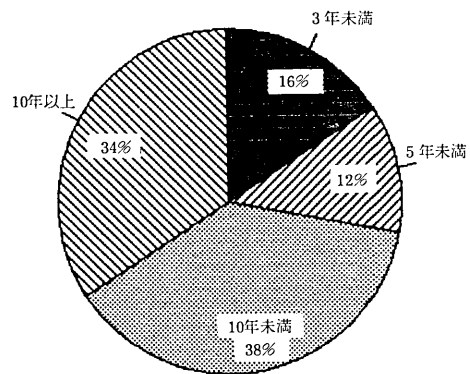


図5 経験

%に近い(図6)。これは私立大学の80%と比較した場合、数字では10%前後の差しかみられない。勤務形態(図7)が専任と兼任がそれぞれ50%近い点と、1~2名の勤務である為、指導者に恵まれない点から、経験年数と資格だけでは、病院図書館業務の専門性が高いとは計れないと考えられる。又、

役職に就いているのは、わずか13%で、管理職への道が開けていないのは女性担当者が多いのが一因であろう。

研修会へは78%の人が参加出来る状態である(図8)。休暇を取って出席している人は、プライベートな時間を活用していることになり、研修意欲が高いと思われる。

## 2) 就業動機

経済的自立が47%で1位を占め、社会に出て見聞を広めるための22%である(図9)。朝日新聞の調査によると、一般女性の再就職の場合の動機は“家計費の足しに”と“生計を維持する為に”を合わせると72%に達し、生活感がにじみ出ている(図10)。この差は学校を卒業して初めての就職である人が多い為であろうと推察出来る。

## 3) 職業選択の動機

図書室に勤務した理由は、図11のとおりである。自分の希望には無関係に配属された人が40%にもかかわらず、有資格者が69%を占めていると云う事は配属後資格を得た人が多く、担当者の努力のあらわれかと思われる。希望して配属になった人は9%しかいないにもかかわらず、満足度が高い(後述)のは、おもしろい現象である。

## 4) 就業継続意志

今後も続けたい人が43%、条件が改善さ

れば続けたい人が25%で、70%近くが継続意志を示しているが、結婚までとの回答は女性ならではのであり、転職したいが16%あったのが興味深い(図12)。

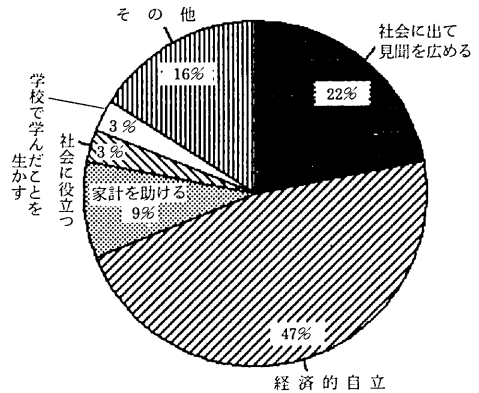


図9 就業動機

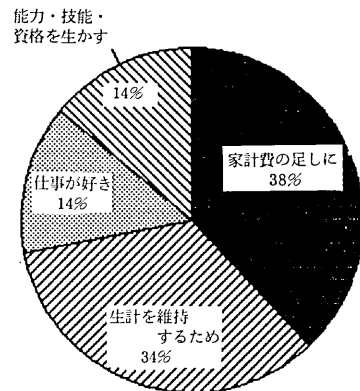


図10 女性の再就職の動機

34%	11人	大学(短大)	45%
13	4	通信教育	35
22	7	司書講習会	
31	10	なし	19

病院図書室 私立大学

図6 司書資格

勤務形態	兼任	15人	47%
	専任	17	53
雇用形態	正職	26	81
	アルバイト	6	19
勤務地位	役職有	4	13
	役職無	28	87

図7 勤務状況

自由	14人	44%
回数制限	11	34
休暇	2	6
その他	5	16

図8 研修会出席

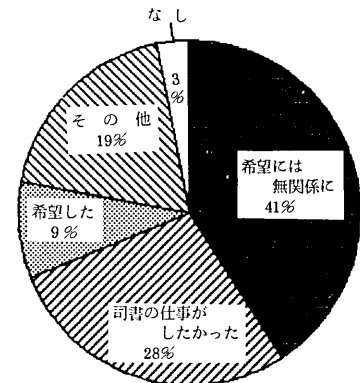


図11 勤務理由

5) 仕事に対する考え方

では、その職場はどのような条件のところか(図13)。仕事が楽ではない(66%)が自分に向けており能力が生かせる(53%)、又兼務であり、1~2名で受入から貸出し・レファレンス等すべての業務をこなすので仕事に変化がありおもしろい(56%)、経験年数の割に質の高いサービスが提供出来ていないけれども司書にしか出来ない仕事も多くあり、将来性がある(47%)と考えている。反面院内での位置づけや管理方針が明確でない(53%)為、仕事上で将来の展望や目標が明確にもてない(31%)状態も推察出来る。

今後、図書室で仕事を続けて行くうえで、大切だと思われるものは(図14)、図書館・情報学分野のより専門的な技術や知識であり(57%)、医学分野の知識・用語の修得(47%)などの専門志向が50%前後を占めている。職場の条件が41%を占め(病院の規模、目的が種々雑多の為推察出来ない面が多々あ

る)、外国語の能力と続く。

6) 満足度

では、このような現状の中でどれだけの人が仕事に満足しているのだろうか(図15)。

大変満足13%、やや満足53%、と66%の人が満足している。明確に不満である人が6%と1割にも満たない。

現在の図書室に希望とは無関係に勤務したが資格も修得し、仕事にバラエティがあり現状の仕事を維持することに満足している姿と、実務研修意識はあっても消極的で、継続の為には職場条件にいろいろ問題があり、位置づけも明確ではないが、まずまず満足しているのが現状の姿のようである。

7) 自由記入による調査項目

調査項目8~13の自由記入欄については、主なものを取り上げる。

A. 仕事上、最もやりがいや喜びを感じるのはどのような時か

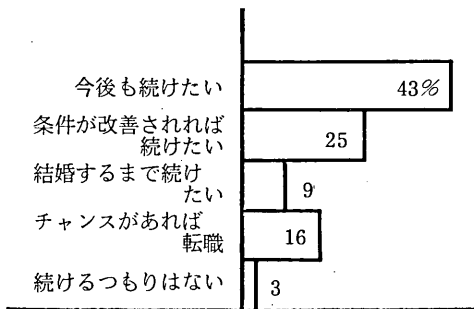


図12 就業継続意志

専門的な技術や知識	18人	57%
職場の条件	13	41
医学分野の知識用語の修得	15	47
外国語の能力	6	19
サービス精神	6	18
個人的条件	3	9
事務能力	3	9

図14 続けるための条件

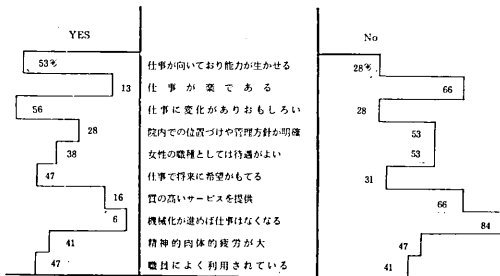


図13 就業意識

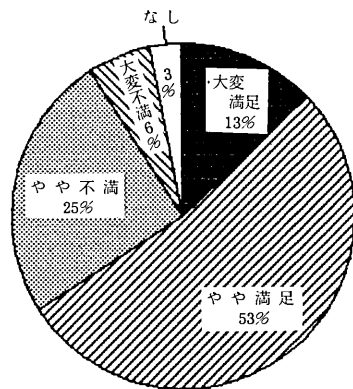


図15 満足度

- ① 文献検索の時、サービスの提供により人間本来の関係が生じた時
- ② 利用者から頼られる時、感謝された時
- ③ 自分で計画・実行が出来る
- B. 工作上、最も不満を感じたり、辛い思いをするのはどういう時か
- ① 図書室の重要性が認識されない時
- ② 仕事に対する評価が不十分な時
- ③ 兼務の為、仕事が中途半端になる
- ④ 雑用が多い
- ⑤ 資料の少なさを痛感した時
- ⑥ 利用者の反応がない時
- ⑦ 情報が提供出来なかった時
- ⑧ 仕事について十分語り合える仲間が身近にいないこと
- C. 工作上最も関心のある事柄は？
- ① 利用者に対するサービス（レファレンス、文献検索、どのような情報を欲しがっているか）
- ② 選書と蔵書構成
- ③ 病院組織と図書室の位置・役割
- ④ 情報産業が発達すれば図書館はどうなるのか
- ⑤ 施設の問題（スペースの拡大、オンライン・システムの導入）
- D. 工作上将来の展望や目標について
- ① 担当者の能力に関係なく、一定のレベルの質の高いサービスが出来る機能を確立する。
- ② 正職員になること
- ③ 他の図書室と協力して、病院のための情報センターをつくりたい
- ④ 兼務から図書室の仕事のみに分離させる
- ⑤ 機械化を考える
- E. 男性の方へ。同僚として、女性担当者をどうみているか
- 回答なし
- F. 女性の方へ。病院図書室担当者は女性が多いが、①仕事上でそれに対する感想と②女性の職場として病院図書室をどう考えるか

- ①1. 女性であればその雰囲気がかもしだされる
2. 図書室全般の運営・経営能力などは女性には不得手なのではないか
3. 綿密さ・持久力・サービス精神など地味な仕事が多いので女性に向いているのでは？
4. 性別に関係なく担当者の持ち味が利用者者に反映する。
- ②1. 受身的に仕事をとらえると面白さに欠ける職場
2. 上席者がいない為、図書室担当者が比較的自由に運営出来る反面、自己本位にならないように注意する
3. 司書の力量により図書室の機能が左右される為、全力投球出来る職場である

## ま と め

就職動機も継続意志も目標もさまざまであり、女性特有の考え方も見られる。しかしこれは、今までの結婚したら家庭にという考え方から、女性も仕事をもたなくてはという考え方への過渡期の現象と推察される。又、新しい事柄への企画力の弱さや、仕事と生活感の密着性の薄さから、与えられた職場に満足している状態をつくり出しているとも考えられる。しかし本当に消極的なのだろうか？最近、病図協内で“病院図書室マニュアル”“総合目録和文編”が完成した。これらも病図協加盟図書室によって企画され、発行された。必要な知識・業務の獲得に努力を惜しまない態度こそ忘れてはならない事である。病院図書室のレベル・将来性が担当者の資質によって左右される現在、少しでも質の向上を計る必要がある。その為には研修企画は以下の点について考慮する必要があると思う。

a. 研修意欲を高める企画を練る。

b. 指導者・先輩に恵まれず、刺激が少ない欠点を補う。

c. 専門的知識・技術の修得の場を提供する。

- d. 加盟図書室全体が協力して行う事業を企画し、連帯意識を強める。

研修部は、企画を十分に検討し、指導的役割を果たしてゆきたいと考えている。担当者個人個人の才能が研かれれば、それだけ図書室が延いては病院全体が豊かになると考えるからである。

#### 参 考 文 献

- 1) 加藤孝明：私立大学における女性図書館員の就業意識調査。Library & Information Science No.16：253, 1978
- 2) 小磯悦子：女性からみた資料室。ドクメンケンキュウ 27：465, 1977
- 3) Genevieve Boisard：フランスの図書館における女性の地位。ドクメンケンキュウ 29：139, 1979
- 4) 岡田政子：婦人司書の再就職を考える。再就職への道。図書館雑誌77：202, 1983
- 5) 森 耕一：婦人司書の再就職を考える。労働の二重構造。図書館雑誌 77：217, 1983
- 6) 常盤 繁：公共図書館職員採用制度の実態。図書館雑誌 76：335, 1982
- 7) 朝日新聞 S.59年3月19日